

船舶事故調査報告書

平成24年11月8日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	平成23年12月6日 09時30分ごろ
発生場所	石川県珠洲市 ^{すずろっこう} 禄剛埼北北東方沖 禄剛埼灯台から真方位020° 22.6海里付近 （概位 北緯37° 53.0′ 東経137° 29.4′）
事故調査の経過	平成23年12月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第21 ^{たいせい} 大盛丸、11.17トン IK2-3323（漁船登録番号）、有限会社上谷水産 14.40m (Lr) × 3.45m × 0.98m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和49年8月2日
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年6月2日 免許証交付日 平成18年12月4日 （平成24年6月5日まで有効） 漁ろう長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年5月16日 免許証交付日 平成21年4月27日 （平成26年6月16日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、禄剛埼北北東方沖で操業中、漁ろう長が操船して前進しながら瀬縄（漁具の標識であるボンデンと錨をつないでいる長さが約500mの綱）を巻き揚げていたところ、平成23年12月6日09時30分ごろ、船尾から「ゴトゴト」という音を発し、瀬縄がプロペラに絡んで切れたので、機関を中立にした。 漁ろう長は、浮子がプロペラに引っ掛かっているのをプロペラ点検口から見付け、浮子と残りの瀬縄とをつなぐロープを引き揚げて

	<p>切断した。</p> <p>本船は、残りの瀬縄の巻揚げを再開し、10時00分ごろ揚網機が突然止まったので、漁ろう長が、機関室を確認したところ、機関室が浸水していた。</p> <p>本船は、船内の電源が喪失したので、乗組員がバケツによる排水を行い、漁ろう長が海水の漏出箇所を探したが、漏出箇所を発見することができず、浸水量が増加した。</p> <p>本船は、船長が僚船に救助を依頼し、来援した僚船にえい航されて珠洲市狼煙漁港に向かったが、更に浸水量が増えたため、乗組員が僚船に移乗した。</p> <p>本船は、16時05分ごろ左舷側に転覆したのち、その状態でえい航されて狼煙漁港に帰港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>瀬縄には、浮子2個をボンデンから約7.5m及び約15m離し、それぞれ約4mのロープでつないでおり、そのうち1個の浮子が硬質プラスチック製であった。</p> <p>本船は、プロペラ上方の船底外板の破口形状が浮子のロープ取付け部分の形と同じ大きさであり、プロペラの翼端が曲がっていた。</p> <p>本船の破口箇所は、バッテリー室であり、バッテリー室の船首側床面の中央部やや左舷側に船首方の機関室に通じる直径約25mmの穴が開いており、バッテリー室のビルジが機関室に流れ落ちるようになっていた。</p> <p>本船は、ビルジ高位警報装置が機関室に設置されていたが、作動しなかった。</p> <p>乗組員は、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>本船は、建造後37年を経過したFRP船であった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、禄剛埼北北東方沖において操業中、機関を前進にかけて瀬縄を巻き揚げていた際、プロペラ付近に瀬縄が絡み、プロペラとプロペラ上方の船底外板との間に浮子が挟まれ、浮子のロープ取付け部分がプロペラ上方のバッテリー室の船底外板に当たって破口が生じたことから、船内に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、バッテリー室と機関室との隔壁に直径約25mmの穴を開けていたため、バッテリー室への浸水が機関室に流入したものと考えられる。</p> <p>本船は、建造後37年を経過したFRP船であり、船底外板が劣</p>

	化していた可能性があると考えられる。
原因	<p>本事故は、本船が、禄剛埼北北東方沖において操業中、機関を前進にかけて瀬縄を巻き揚げていた際、プロペラ付近に瀬縄が絡み、プロペラとプロペラ上方の船底外板との間に浮子が挟まれ、浮子のロープ取付け部分がプロペラ上方のバッテリー室の船底外板に当たって破口が生じたため、船内に浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁具が船底下に入らないように操船すること。 ・ 救命胴衣を着用しておくこと。